

●全業績と人物像がわかる人物研究の基本ツール●

小川未明全童話



9784816923913

〈人物書誌大系43〉

小笠 裕二 編

A5・470頁 定価(本体18,000円+税) ISBN978-4-8169-2391-3 2012年12月刊行

生誕130年を迎えた童話作家 小川未明の初の個人書誌

- 明治・大正・昭和の半世紀にわたって活躍した童話作家・小川未明の本格的な個人書誌です。
- 新発見の作品を含む全童話1,183作品の初出、あらすじ、収録図書を発表年月順に掲載。童話集・童話全集210冊の書誌事項と収録作品、研究・参考文献、年譜、未明の生涯と作品の特色がわかる概説も収録しています。
- 作品名、書名・掲載紙誌名、人名から引ける「索引」付き。

「概説」より

…未明は、昭和36(1961)年、79歳で生涯をとじるまでの間、小説や童話、小品、随筆、評論等を書きつづけた。未明が世に送り出した童話の数だけに限っても、1183編にのぼる。日本の童話作家のなかで、約1200編に及ぶ童話を、50年の長きにわたり、孜々として書きつづけた作家が他にいるだろうか。いずれの童話も童話作品として一定の水準を保っている。未明童話の森に入ってみると、その面白さが分かる。未明という人間の大きさ、彼が指ししめそうとしたものに出会うことができる。…

小川未明 おがわ・みめい

童話作家・小説家 1882～1961

明治15年4月、新潟県上越市生まれ。本名小川健作。雪深い北国の自然の中が、未明文学のロマンチズムを育んだ。上京後、早稲田大学で坪内逍遙やラフカディオ・ハーンの影響を受け、小説「漂浪児」で作家デビュー。大正期に入り、二人の愛児を病気で亡くした体験が、未明の目を貧しい人々や弱い子供たちへ注がせた。大正期末まで小説と童話を精力的に書き続けたが、昭和期に入ると童話に専心した。「金の輪」「野ばら」「赤い蠟燭と人魚」「月夜と眼鏡」等の芸術性の高い童話の他、社会主義時代の童話、生活童話、戦争童話、戦後のヒューマニズム童話など、昭和36年5月に79歳で生涯をとじるまでの間、未明が世に送り出した童話の数は約1200編に及ぶ。

目次と内容

- I 概説 ～未明童話の森へ～
- II 年譜 生涯と業績、童話集・小説集の出版内容など
- III 童話作品
発表年月順に童話作品全1183点と各作品の初出または初収録、あらすじ、収録図書の書誌事項など
- IV 童話集・童話全集 全208冊を収録
- V 研究・参考文献
明治40(1907)年～平成24(2012)年の評伝・作品研究など674点
- VI 索引 童話作品名、書名・掲載紙誌名、人名から引ける索引

編者プロフィール

小笠 裕二 おの・ゆうじ

1962年、奈良県生まれ。筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科退学。金沢大学助手を経て、現在、上越教育大学人文・社会教育学系教授。著書に、「文学の体験 近代日本の小説選」(編、永田印刷出版部、2012)、『新選小川未明秀作童話50 ヒトリボッチノ少年』(編、蒼丘書林、2012)、『解説小川未明童話集45』(編著、北越出版、2012)などがある。

2016.12

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■貴店名	注文書	小川未明全童話 〈人物書誌大系43〉	
		定価(本体18,000円+税) ISBN978-4-8169-2391-3	冊
		■お名前	

大正13年(1924) 42歳

3月、童話集『飴チョコの天使』を出版。4月、創立された日本フェビアン協会に参加、機関誌『社会主義研究』に寄稿。7月、感想集『芸術の暗示と恐怖』を出版。9月、童話集『赤い魚』を出版。11月、童話集『ある夜の星だち』を出版。

大正14年(1925) 43歳

日本小説家協会の会員となる。9月、雑誌『解放』の同人となる。11月、『小川未明選集』(小説4巻、童話2巻)の刊行が始まる。12月、日本プロレタリア文芸聯盟設立に参加。

大正15年・昭和元年(1926) 44歳

3月、日本童話作家協会を創立、幹事となる。四男優出生。4月、童話集『兄弟の山鳩』を出版。『小川未明選集』完結。これを機に小説の筆を断ち、童話に専念することを決意。5月、感想小品集『未明感想小品集』を出版。6月、郷里春日山神社の後継に夫婦養子を迎える。7月、童話集『海からきた使ひ』、小説集『堤防を突破する浪』を出版。11月、日本プロレタリア文芸聯盟の大会でマルキスト派とアナキスト派が対立、未明らは日本無産派芸術聯盟を組織する。12月、童話集『蜻蛉のお爺さん』を出版。

「Ⅱ 年譜」では、小川未明の生涯と業績、童話集・小説集の出版内容が年ごとにわかる。

0141 月夜と眼鏡

〈初出〉『赤い鳥』 大正11年7月

〈あらすじ〉月のよい晩、おばあさんが針仕事をしていたとき、窓の外でつぶつぶ音がした。眼鏡売りだと言う。おばあさんは針のめどに糸が通らないで困っていたので、一つ買う。やがてまた戸をたたく音がした。女の子が立っていた。「町の香水製造場で働いているのですが、石につまづいて怪我をしました。」眼鏡をかけてみると、少女はこちょうだった。

- 〈収録〉『赤い魚』 研究社 大13.9 IV013-02
 『小川未明選集第六巻』 未明選集刊行会 大15.4 IV017-21
 『未明童話集1』 丸善株式会社 昭2.1 IV023-06
 『日本童話集(中)』 アルス 昭2.5 IV024-03
 『未明童話集 赤い蠟燭と人魚』 富山房 昭13.12 IV048-1
 『大きな蟹』 明治書院 昭16.1 IV056-03
 『月夜と眼鏡』 フタバ書院成光館 昭18.5 IV069-02
 『大きな蟹』 明治書院 昭21.9 IV076-3
 『未明童話青いランプそのほか』 文寿堂出版部 昭21.10 IV078-07
 『山の上の木と雲の話』 紀元館 昭22.1 IV079-07
 『月夜と目がね』 小学館 昭22.5 IV083-1
 『兄弟の山鳩』 東西社 昭22.10 IV089-03
 『花と人間の話』 小学館 昭23.11 IV099-10

「Ⅲ 童話作品」では、童話作品全1183点を発表年月順に掲載。初出または初収録、あらすじ、収録図書を記載。「Ⅳ 童話集」の番号を示し内容索引として使える。

昭和29(1954)年

131 『赤いろうそくと人魚』(世界名作童話全集第44巻)

講談社 昭和29年3月
 〈さし絵〉井口文秀、〈巻頭「童話を書くときの気持ち」〉、〈「小川未明の童話」について〉 坪田譲治
 〈収録作品〉 [1] 月夜とめがね / [2] 金の輪 / [3] 赤いガラスの宮殿 / [4] 月とあざらし / [5] 港についた黒んぼ / [6] うし女 / [7] 青いランプ / [8] 二どととまらない旅人 / [9] 赤いろうそくと人魚 / [10] 野ばら / [11] ある夜の星たちの話

「Ⅳ 童話集・童話全集」では全208冊を収録。各図書には、出版社、出版年月、装幀・挿絵・編集・序文などの担当者、内容目次(収録作品一覧)を記載。童話集初収録作品は太字で表示。

132 『うずめられた鏡』(現作)

金の星社 昭和29年6月
 〈装幀・挿絵〉中尾彰
 〈収録作品〉 [1] うずめられた鏡 / [2] ちらがきれいか / [3] 心は大空をおよぐ / [4] パクトと虫 / [5] へいくバス / [6] なかったこと / [7] 赤いげた / [8] のひびき / [9] 空の

V 研究・参考文献

- 301 『日本児童文学名作選 第1巻 赤いろうそくと人魚』 あかね書房 1972.10
 まえがき (水藤春夫)
 小川未明一人と作品 (水藤春夫)
 302 高橋功「小川未明の一考察」：東海大学紀要文学部(東海大学文学部) 通号18 1972.12
 303 高田文化協会編『郷土の小川未明』 さ・き・ら書房 1972.12
 未明とその文学
 未明先生の思い出 (坪田譲治)
 小説家であり童話作家であったこと (小田嶽夫)
 雪国の野ばら—未明文学に思うことなど (与田準一)
 未明童話と私 (関英雄)
 未明童話研究のための覚え書 (続橋達雄)
 未明童話から私の得たもの (杉みき子)
 未明をとりまく人びと
 遠い日の思い出 (岡上鈴江)
 私の心に今も生きている未明 (小川清隆)
 あの頃の思い出
 未明先生詩碑建設 (松井泉吉)
 未明先生の思い出 (堀川歌子)
 雪止みて (佐藤真二)
 未明さんのご両親の思い出 (平田ミヨ)
 小川未明の母 (梶川謠雪)

「V 研究・参考文献」では、図書・雑誌・新聞に発表された研究・評伝・参考文献を出版・発表年月順に収録。論文集・特集記事は、収録記事内容もわかる。

133 『未明新童話集』

太平社 昭和29年7月
 〈装幀〉浜田稔、〈挿絵〉
 〈収録作品〉 [1] 誰に
 春よ早く来い / [4]